

イーストマン・コダック社 新CEO来日記者会見

—自社開発技術でイメージング分野の世界的リーダーに

コダック合同会社（本社/東京都、代表執行役員社長 藤原浩、以下コダック）は2014年9月9日、東京ドームホテルにおいて今年2月にイーストマン・コダック社のCEO（最高経営責任者）に就任したジェフ・J・クラーク氏の初来日を機会に、コダックのグローバルな事業戦略と展望、さらには日本市場における今後の展望と戦略を明らかにした。



挨拶に立った藤原社長（写真左）はイーストマン・コダック社CEO兼取締役ジェフ・J・クラーク氏を紹介したうえで、最新トピックとしてコダックと東京機械製作所が新聞印刷のハイブリッド化推進に向け基本合意したことを発表した。会見にはイーストマン・コダック社アジア・パシフィック地域 最高責任者 ロイス・レベーク氏も同席した。

■意義あるR&Dを遂行、2014年は1億4000万ドル投資

クラーク新CEOは会見で3つの重要なイメージングビジネスとして、『グラフィック・コミュニケーション』（商業印刷、出版印刷）、『パッケージ』、『ファンクショナル・プリンティング（機能性印刷）』を挙げてこの分野でのイノベーションを進めていることを強調。主要事業である『グラフィック・コミュニケーション』分野ではソフトウェア、CTP技術と13種類に及ぶCTPプレートやインクジェット技術などを所有しており、また7年間でシェアを10%に拡大した『パッケージ』分野ではFLEXCELシリーズやインクジェットなどで大きく成長している。また将来の成長分野である『ファンクショナル・プリンティング』では銀塩フィルム技術をベースにしたイメージング技術によりタッチスクリーンセンサーや電子部品の開発などを挙げて、イーストマン・コダック本社が市場を変革しビジネスチャンスの加速に力点を置く方向を示した上で具体的なソリューションを説明した。

特に、「2014年は1億ドルの研究開発費と4000万ドルの設備投資をインクジェットとファンクショナル・プリンティングなどに投資していく」と、チャプター11による開発の停滞への懸念を払拭する意欲的な計画が示され、再びコダックが革新の理念に基づくテクノロジーカンパニーとして成長を加速させるソリューションを提供し、世界のイメージング技術のリーダーになるという自信に満ちた会見となった。

日本のインクジェット市場についてクラークCEOは、「成長率は欧米に比べると低いが、数年後には間違いなく大きな成長の軌道に乗る」との見解を述べ、市場の世界規模は

2005年の1890億ドルから2015年には3070億ドルへ60%以上の成長が見込まれていると、これから注目すべき市場であることを強調した。

■イーストマン・コダック本社の方向性

世界中に写真を普及させた130年の歴史を有するイーストマン・コダック社は、業界やユーザーがさらに成長するためのソリューションの提供と革新を続けながら、次の主要な分野に焦点を当てていると今後のビジネスの方向を示した。



イーストマン・コダック社
新CEO ジェフ・J・クラーク氏

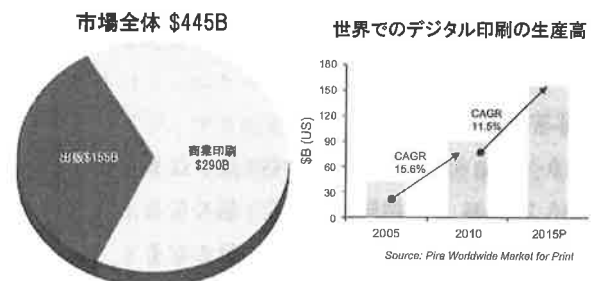
○写真技術を生かす機能性印刷分野に進出

コダックは印刷およびイメージング技術の応用分野として、電子回路やセンサーなどのエレクトロニクス部品であるタッチスクリーンパネル、スマートパッケージングなどの製造技術を開発している。この分野のビジネスはまだ限られているが、今後、電子機器への実装分野は大きなビジネスチャンスが見込まれる。

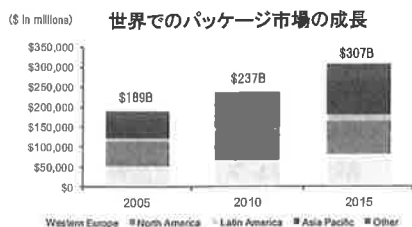
○自社開発技術で、商業・出版およびパッケージの印刷分野をリード

世界のグラフィック・コミュニケーション市場は漸減しているが依然として4450億ドルの市場規模があり、コダックは商業印刷、出版印刷分野からの収益が8割を占めている。コダックは自社開発技術による業界最高峰の包括的なソリューションを提供し、独自の強みを持つハイエンドデジタル印刷技術とオフセット印刷を融合させたハイブリッド印刷分野でのコダックのソリューションの採用が急速に加速していると述べた。

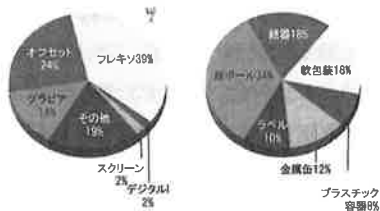
大きな成長が見込まれるパッケージ印刷分野はコダックの収益の2割を占めるまでに成長しており、米国ではファイザー、P & G、インペブのようなブランドオーナーは、プ



ランド管理および商品パッケージの店頭での陳列棚におけるインパクトをいかに向上させるかに力を入れている。この分野は折り箱、シール・ラベル、商品タグ、軟包装パッケージ、段ボール箱、金属や硬質プラスチックによるパッケージなど幅広い分野に及んでいる。



世界でのパッケージ市場の概要



コダックでは、印刷業界をリードする基幹技術への研究開発への継続的な投資を行っている。日本の群馬事業所の研究開発部門は、世界に2カ所あるコダックのCTPプレート開発研究センターの一つとして世界的にも重要な拠点となっている。さらに同所の生産部門は13種類に及ぶCTPプレートの日本およびアジア太平洋市場への供給基地になっている。

ここでは現像処理が不要で化学薬品を一切使用しない環境に優しい画期的なサーマルCTPプレート「SONORAプロセスフリープレート」の研究開発や2015年の日本での市場導入に向けた製品テストも行われている。

コダックにはCTPプレート、CTPセッター、ワークフローソリューションなどがあるが、特にSONORAプロセスフリープレートは現像処理を全く必要としない無処理CTPプレートとして世界的に注目を集めている。2014年7月には海外において1000社目の印刷企業がSONORAプレートの導入を果たし、前年同期比で400%以上の成長を遂げている戦略製品である。現在、コダックのCTPプレートセッターは世界で1万8000台以上が導入されている。またコダックのPRINERGYワークフローは1999年の発表以来、6万以上のライセンスが使用されている。さらにコダックのデジタル印刷ソリューションでは、ハイエンドの輪転型インクジェットデジタル印刷機 PROSPER プレス、ハイエンドの枚葉型デジタル印刷機で、カラーモデルのNEXPRESS、モノクロモデルのDIGIMASTERシステムや関連のインクや消耗品資材を市場に提供し高い評価を得ている。

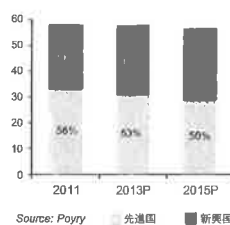
■グラフィック・コミュニケーションにおける変革

商業印刷や出版印刷などコミュニケーション関連の印刷物における総ページ数は、世界的に見ればほぼ横ばいで北米、欧州、日本などはわずかに減少している。一方で中国、インド、南米などの新興市場は成長しており、顧客企業は商

品やサービスのマーケティング、販売促進を積極的に推進しており、世界的な印刷ビジネスは成長していると言える。

日本では過去10年間、経済は縮小しているが、投資を継続する必要がある非常に大きな市場であり、特にデジタル印刷の需要増加に期待している。

世界での印刷ボリューム



Source: Poyry

出版社においては少数の印刷技術を印刷会社が提供することで、在庫の3割を毎年廃棄にするような無駄を無くすことも可能になる。

日本の新聞印刷においてもハイブリッド化により、新聞という大部数印刷におけるパーソナライゼーションやパーソジョニングの事例が出てきた。

最近では、印刷物はさまざまなデジタルメディアが融合するクロスメディアの世界において、重要なコミュニケーションツールとして価値が再認識されている。

○堅実な成長を続けるパッケージング市場にも注力

パッケージ分野は、今後、大きな成長が見込まれる分野であるが、コダックではブランドオーナーがより効果的に商品の店頭での陳列効果を高め、自社ブランドの管理の向上に貢献するソリューションを提供しパッケージ市場の拡大に注力している。パッケージ分野にこれから求められているのは、ジャストインタイムな生産、プロセスの効率化、セキュリティ、インパクト、デジタルとの統合などであり、インクジェット技術の重要度がパッケージ分野でもますます高まってきたことが説明された。「日本では特にパッケージの美しさと高品質が重要であるが、これは日本文化にも関連している」という見解からは、幼少時に在日経験のあるクラークCEOが日本をよく理解していることが分かる。商品パッケージは輸送や保存中に製品を保護するだけでなく、販売時には重要なマーケティングコミュニケーションツールになり、パッケージ印刷物の改善による商品価値の向上が可能である。

今後、パッケージ市場向けには、しっかりとマーケティング情報が伝わるような、効果的なパッケージングを提供していくことが求められている。

コダックはこれまで、フレキソ印刷向けの製版システムとしてKODAK FLEXCEL NXを提供してきて、既に世界50カ国以上に設置され350システム以上が稼働しており、技術革新を称える主要な業界賞をいくつも受賞してきた。そして今後は、ニーズが高まっている高品位印刷をフレキソ方式で実現するための、エラストマースリーブおよびプレートへの直彫りを行うFLEXCEL Directシステムの導入を加速していくことを表明した。FLEXCEL Directは、既に国内でも日版グループや佐川印刷(京都)に設備されている。

さらに、現在、ハイエンドのインクジェットプリンティングシステムのPROSPER Sシリーズによるパッケージ印刷分野への応用も実用化へ向けて準備を進めている。